



Title	中国語複合動詞「V 出」の意味構造
Author(s)	王, 蓓淳
Citation	大阪大学言語文化学. 2009, 18, p. 209-220
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/77835
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

中国語複合動詞「V出」の意味構造*

王 蓓淳**

キーワード：語彙概念構造、意味的主要部、単独動詞の「出」

本文從動詞の語意論出發，探討中文複合動詞「V出」の語意結構，嘗試釐清「V出」の語意結構。本文利用語彙概念構造的語言學理論，說明複合動詞「V出」是以「出」作為語意中心。

考察の步驟分為兩部分。本文首先探討動詞「出」在單獨使用時的用法，分析「出」做為單獨使用動詞時的語意結構，確認「出」的語意結構。本文將「出」分為「移動的出」、「出現的出」以及「致使用法的出」，探討「出」是如何與其他動詞(V1)結合成「V出」，同時研究怎樣的先行動詞(V1)可以和「出」相結合。最後，從“論元結構”，以及“時態”兩個層面進行考察，確認複合動詞「V出」的語意結構。

1 はじめに

動詞「出」がほかの動詞と結合し、複合動詞「V出」になると、(1)(2)のようにヒトやモノの移動を表す場合と、(3)(4)(5)のように出現を表わす場合がある。

- | | | |
|-----------------------------|--------------------|------|
| (1) a. 我 走出 了迷宮。 | (私は歩いて迷路を出た) | (移動) |
| b. 他 跑出 了教室。 | (彼は走って教室を出た) | |
| (2) a. 他 把車子 推出 了車庫。 | (彼は車を車庫から押し出した) | (移動) |
| b. 我 把桌子 搬出 了教室。 | (私は机を教室から運び出した) | |
| (3) a. 他 寫出 了一篇小説。 | (彼は小説を一冊書いた) | (出現) |
| b. 他 畫出 了一幅山水畫。 | (彼は山水の絵を一つ描いた) | |
| (4) a. 他 急出 了一身汗。 | (彼は焦って汗だくになった) | (出現) |
| b. 他 嚇出 了心臟病。 | (彼は驚いて心臟病の発作が起こった) | |
| (5) a. 他 哭出 了黑眼圈。 | (彼は泣いてクマができた) | (出現) |
| b. 他 笑出 了魚尾紋。 | (彼は笑って目じりの皺ができた) | |

「V出」は様々な意味を持ち、その意味は相互的に関連付けられていると考えられる。

* 中文複合動詞「V出」の語意結構 王蓓淳 (WANG PEI-TSUEN)

** 大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程

本稿はモジュール形態論に基づき、語彙概念構造を用いて「V出」の意味構造を明らかにすることを目的とする。本稿の構成として、まず、2節では先行研究を踏まえて、「V出」の意味的主要部は「出」にあることを仮定する。3節では、動詞「出」の意味構造を考察する。4節では、動詞「出」はどんな前項動詞と結合するのか、また、前項動詞とどのように結合し、結合した「V出」はどんな概念構造を持つのかを考察し、分析する。最後に5節では、「V出」の項構造とアスペクト素性を考察し、「V出」における主要部は「出」にあることを再確認する。

2 先行研究

2.1 Tai (2003)

Tai(2003:301-315)は認知言語学のアプローチから、「述語-補語¹⁾」の形を持つ複合動詞では、意味的主要部は結果を表す後項動詞にあると主張している。

Tai(2003)によると、中国語に達成動詞や到達動詞がなく、後項動詞との複合を経て初めて結果が含意されるようになる。たとえば、(6)aでは「殺した結果として、ジョンが死んだ」、(6)bでは「打った結果として、ジョンが死んだ」、(6)cでは「蹴った結果として、ジョンが死んだ」のように、後項動詞と共起することにより、初めて動作の結果が明示される。したがって、「述語-結果補語」の基本スキーマは「行為-結果」であるとTai(2003)は述べている。また、中国語の動詞意味論において結果が意味の中心であるため、「述語-結果補語」の主要部は結果を表す後項動詞にあるとTai(2003)は主張している。

- (6) a. 他 **殺死** 了約翰。(彼はジョンを殺して、結果としてジョンは死んだ)
 b. 他 **打死** 了約翰。(彼はジョンを打って、結果としてジョンは死んだ)
 c. 他 **踢死** 了約翰。(彼はジョンを蹴って、結果としてジョンは死んだ)

さらに、Tai(2003)は結果事象に限らず、移動事象においても同様のことが成り立つと述べている。たとえば、「漂出」において、(7)bのように前項動詞がなくても、文は成立する。しかし、(7)cに示されるように後項動詞「出」が省略されると、前項動詞だけでは文は成立しない。したがって、移動事象においても、意味的主要部を担うのは後項動詞であるとTai(2003)は主張している。

- (7) a. 瓶子 **漂出** 了洞穴。(瓶は漂いながら、洞窟から出た)

¹⁾ 中国語学では、「出」、「進」のような方向動詞がほかの動詞と結合して後項動詞として用いられる場合、後項動詞を方向補語と呼ぶ。Tai (2003) は方向補語だけではなく、結果補語も扱っているので、本稿はそれをまとめて「述語-補語」と表記する。

- b. 瓶子 **出**了洞穴。 (瓶は洞窟から出た)
 c. *瓶子 **漂**了洞穴。 (瓶は洞窟から漂った)

2. 2 劉 (1998)

劉(1998:217-232)²⁾は意味的側面から、「V出」、「V進」、「V上」、「V下」など「述語-方向補語³⁾」の分類を行っている。劉(1998:2-30)によると、「方向補語」の意味を「方向的意味⁴⁾」、「結果的意味⁵⁾」、「状態的意味⁶⁾」という三つに分類することができる。ただし、「出」はこの三つの意味すべてを持つわけではない。「出」は「方向的意味」と「結果的意味」、二つの用法を持つと劉(1998)は述べている。

さらに、「出」は前項動詞を選択すると劉(1998)は主張している。(8)に示されるように、移動を表す「出」では、移動の様態が含まれる動詞を前項動詞に選択することが多い。また、結果を表す「出」は、(9)のように、「生産(生産する)」、「制定(制定する)」などの作成動詞、「生(生む)」などの生産動詞や「顯(現れる)」の出現動詞などを前項動詞に選択することが多い。

- (8) a. 由門里 **走出** 潘月亭和李石清。 (門の中から潘月亭と李石清が歩いて出た)
 b. 小鳥 **飛出** 籠子。 (小鳥が飛んで籠を出た)
 (9) a. 製藥廠又 **生產出** 了一批新藥。 (製藥会社はまた一連の新藥を生産した)
 b. 衣服非常合體、**顯出** 了她身材優美的曲線。
 (服は体にぴったりフィットし、彼女の優美な曲線が現れた)

2. 3 本稿の主張点

本稿は Tai(2003)の主張を支持し、「V出」の意味的主要部は後項動詞の「出」にあることを、語彙概念構造を用いて示そうとするものである。そこで、まず、単独で用いられる「出」の語彙概念構造を分析する。次に、「出」はどのように前項動詞と結合するのか、また、結合する「V出」はどんな意味構造を持つのかを考察する。

²⁾ 方向補語については、いろいろな観点から研究されている。中でも、劉(1998)がもっとも包括的な研究としてよく挙げられている。本稿は劉(1998)の分類を取りあげることとする。

³⁾ 「進」は“ある場所の中に入る動作”、「上」は“下から上への移動”、「下」は“上から下への移動”を表す動詞である。このような方向動詞は、ほかの動詞と結合する場合、「進」、「上」、「下」は補語として用いられると劉(1998)は主張している。

⁴⁾ 「方向的意味」とは、ある動作を通じて、空間におけるヒトやモノの移動方向を表すということである。

⁵⁾ 「結果的意味」は、ある動作を通じて生じた結果のことを表す。

⁶⁾ 「状態的意味」は空間的意味とは関係なく、時間軸上である動作や状態が展開することを表す。

3 動詞「出」の概念構造

3.1 移動の「出」

「出」は内在的に方向性を含むため、移動を表す場合、(10)に示されるように起点(SOURCE)を目的語にとる。ただし、有方向移動動詞のうち、「出」は「離開(離れる)」とは異なる性質を持つ。(11)と(12)が示すように、「離開(離れる)」は起点が明示されなくても、その場所からの移動が含意されるのに対して、「出」は出発点を明示しなければならない。また、(13)に示したように、「出」は人間を主語とする意図的移動だけでなく、無生物を主語とする場合もある。

- (10) a. 他 出 国了。 (彼は国を出た)
 b. 他 出 門了。 (彼は家を出た)
- (11) a. 他 離開 了日本。 (彼は日本を離れた)
 b. 他 離開 了。 (彼は離れた)
- (12) a. 他 出 國了。 (彼は国を出た)
 b. *他 出 了。 (彼は出た)
- (13) 球 出 界了。 (ボールがボーダーラインを出た)

以上の観察をふまえ、本稿は移動を表す「出」を次の概念構造で表す。

移動の「出」: [BECOME [y BE [AT OUT of-z]]]

3.2 出現の「出」

「出」が出現を表す場合、出現物が目的語に位置し、場所項は文頭に現れる。(14)(15)がその例である⁷⁾。

- (14) a. 竹東山脚 出 石油。 (竹東の山麓は石油が出る)
 b. 蘇州 出 美女。 (蘇州は美女が出る)
- (15) a. 他 出 了汗。 (彼は汗がたくさん出た)
 b. 他 出 了疹子。 (彼は湿疹がたくさん出た)

また、(10)と比較すると、(10)の場所項は目的語位置にあるのに対して、(14)の場所項は文頭に位置することが分かる。(14)の場所項が文頭に位置するのは、“場所項の取り立て”に関係すると考えられる。中国語に限らず、このような構造は英語にも見られる。たとえば、(16)がその例である。

⁷⁾ (14)と(15)は主語が場所名詞であるか、ヒト名詞であるかという点で異なるが、いずれも出現物が現れる場所を表す点で共通している。本稿では(14)と(15)を同列に扱う。

(16) The volcano gushed hot lava.

(16)を説明するために、影山(2002)は(17)の“サンドイッチ構造”を設定している。影山(2002)のサンドイッチ構造では場所項が焦点化されて、BE ないし BECOME の主語に取り立てられ、二つの場所表現が協力して初めて対格が認可される。

(17) サンドイッチ構造 [z_i BE/ BECOME [y…z_i]]

本稿は影山(2002)に従い、(14)(15)を場所項の取り立てであると考え、出現の「出」を次の概念構造で表す。

出現の「出」: [z_i BECOME [y BE [AT OUTof-z_i]]]

3. 3 使役の「出」⁸⁾の意味構造

移動の「出」と出現の「出」のほか、使役の意味を持つ「出」もある。(18)が示すように、「出」はアイデアやお金を“提供する”、“提出する”という意味で用いられる。使役の「出」は提供するものを目的語に位置し、(19)bに示したように、場所項を目的語に取らない⁹⁾。

(18) a. 出主意。 (アイデアを出す)

b. 出錢。 (お金を出す)

(19) a. 我出五千塊。 (私は5千円を出す)

b. *我把五千塊出口袋。 (私はポケットから5千円を出した)

本稿はこのタイプの「出」を使役の「出」とし、次の概念構造で表わす。

使役の「出」: x CAUSE [BECOME [y BE [AT OUT]]]

3. 4 まとめ

本稿は動詞「出」を“移動の「出」”、“出現の「出」”、“使役の「出」”に分類し、

⁸⁾ 今泉・郡司(2002)では、日本語の「V出る」、「V出す」について詳しく分析されている。中でも、使役の「出る」の概念は中国語の「出」にも当てはまるので、本発表はそれを参考にし、使役の「出」の用語を用いて分析する。

⁹⁾ 中国語の「出」は、日本語の「出す」と同様に使役動詞である。両者は共通点が多いが、[SOURCE]を取れるかどうかという点において、中国語の「出」は日本語の「出す」と異なる。

それぞれの意味構造を次の表にまとめる。

「出」のタイプ	「出」の概念構造
移動の「出」	[BECOME [y BE [AT OUT of-z]]]
出現の「出」	z _i [BECOME [y BE [AT OUT of-z _i]]]
使役の「出」	x CAUSE [BECOME [y BE [AT OUT]]]

概念構造を見れば、移動の「出」と出現の「出」の相関関係は明らかである。また、CAUSEを導入することで、すべての「出」タイプが関係づけられる。

4 「V出」の意味構造

本節では、「V出」では前項動詞と「出」が“MANNER”、また“CAUSE”によって結合されることを示す。

4. 1 MANNERによる結合

移動の「出」と出現の「出」はMANNERによって前項動詞と結合することができ、次のような概念構造を持つと考えられる。

前項動詞+移動の「出」： [BECOME <manner> [y BE [AT OUT of-z]]]

前項動詞+出現の「出」： z_i [BECOME <manner> [y BE [AT OUT of-z_i]]]

4. 1. 1 「移動様態動詞+出」

まず、移動の「出」の場合を考えよう。移動の「出」はほかの動詞とMANNERによって結合するということは、あるモノが外に移動する際の様態を表すとのことである。この場合、“移動様態動詞”が「出」の前項動詞に選択されやすい。(20)が示すように、「滑(滑る)」、「流(流れる)」などの移動様態動詞は、「出」と共起する場合、あるモノが外に移動する際の様態を指定するという役割を担うと考えられる。

(20) a. 球 滑出 了房間。 (ボールは部屋から滑り出た)

b. 污水 流出 了排水管。 (汚水はホースから流れ出た)

「移動様態動詞+出」は、次の概念構造で表わすことができる。

「移動様態動詞+出」の概念構造

[BECOME <manner> [y BE [AT OUT of-z]]]

↑
移動様態動詞（「滑」、「流」など）の語彙概念構造

4. 1. 2 「音光放出動詞+出」

続いて、出現の「出」を考察する。出現の「出」は出現を表し、ほかの動詞と MANNER によって結合することは、あるモノがどのように出現するのかを表現する。出現の「出」は瞬間の出来事を表すので、その瞬間の様態を表現するには、同じく瞬間動詞である音光放出動詞が選択されやすいと考えられる。(21)が示すように、動詞「閃」、「噴」と結合するによって、あるモノの出現の様態がビビッドに描かれ、情報がより精緻化する。

- (21) a. 電腦螢幕上 **閃出** 訊號。 (パソコンのスクリーンにメッセージが光って出た)
b. 火山 **噴出** 了大量熔岩。 (火山から大量の溶岩が噴き出た)

「音光放出動詞+出」は、次の概念構造で表わす。

z_i [BECOME <manner> [y BE [AT OUT of-z_i]]]

↓
音光放出動詞（「閃」、「噴」など）の語彙概念構造

4. 2 CAUSE による結合

移動の「出」も出現の「出」も、MANNER のほかに、CAUSE によって前項動詞と結合することができる。その場合、“あるモノの移動”や“出現”を引き起こす原動力を表す動詞、たとえば、移動推進動詞¹⁰⁾ また移動使役動詞、作成動詞などが前項動詞に選択される。

また、中国語の場合、結果を表す場合には意味構造の合成が用いられ、原因と結果の間、時間的・空間的な隔たりの大きさは関係しないという特徴を有する¹¹⁾。表面上使役連鎖がみられない場合でも、因果関係が想定できれば、CAUSE によって結びつく「V出」を作ることが許される。したがって、「V出」には、使役連鎖が強いものもあれば、弱いものもある。

本稿は使役連鎖の強さを踏まえて、CAUSE によって結合する「V出」を考察する。

10 影山・由本(1997:154)の用語に従う。

11 影山(2007)による指摘である。

このタイプの「V出」は基本的に、次の概念構造を有する。

[x ACT ON y] CAUSE [BECOME [y BE [AT OUT]]]

4. 2. 1 「移動推進動詞+出」

まず、移動の「出」を考える。(22)が示すように、移動の「出」は「走(歩く)」、「跑(走る)」などと結合して、“歩いて外に移動する”、“走って外に移動する”という移動動作を表す。

- (22) a. 我 **走出**了迷宫。 (私は歩いて迷路を出た)
 b. 他 **跑出**了教室。 (彼は走って教室を出た)
 c. 小鳥 **飞出**了笼子。 (小鳥が飛んで籠を出た)
 d. 獅子 **跳出**了这个圈圈。 (ライオンは跳んでこの輪を出た)

(22)に示した「走(歩く)」、「跑(走る)」などは、移動する際の様態を表す移動様態動詞とは異なる。「走(歩く)」などは、移動推進動詞と呼ばれ、移動を引き起こす原動力となる身体動作の様態を表す動詞である。移動推進動詞は「出」とCAUSEによって結合し、次の概念構造で表わす。

「移動推進動詞+出」の概念構造

[BECOME [y BE [AT OUT of-z]]]

+ [x ACT] CAUSE [x MOVE]

⇒ [x_i ACT] CAUSE [BECOME [x_i BE [AT OUT of-z]]]

4. 2. 2 「使役移動動詞+出」タイプ

続いて、移動推進動詞のほか、移動を引き起こす原動力になる動詞を考えよう。あるモノの移動には、直接的であろうが、間接的であろうが、ある手段や原因が想定できる。(23)に示されるように、物理的働きかけを表す他動詞「搬」、「推」、「拉」など、本来移動を引き起こすことを目的とした物理的働きかけを表す他動詞がこのタイプの「V出」の前項動詞に選択されやすい。これは「推」のような使役移動動詞は、「出」と結合することによって、“外へ”という移動方向が明示され、“XがYに対して働きかける結果、Yが外へ移動する”という直接的な使役連鎖が想定しやすいからである。

- (23) a. 我把这台冰箱 **搬出**了房间。 (この冷蔵庫を部屋から運び出した)
 b. 我把这张桌子 **推出**了教室。 (このテーブルを教室から押し出した)
 c. 我把这隻狗 **拉出**了笼子。 (この犬をかごから引っ張り出した)

「移動使役動詞+出」の概念構造

[BECOME [y BE [AT OUT of-z]]]

+ [x ACT ON y] CAUSE [y MOVE]

⇒ [x ACT ON y_i] CAUSE [BECOME [y_j BE [AT OUT (of-z)]]]

4. 2. 3 「作成動詞+出」タイプ

CAUSEによって結合する「V出」のうち、作成動詞が前項動詞に選択される「V出」がある。作成動詞では“あるモノが出現する原動力”が表わされるので、(24) (25)のように作成動詞は「出」と共起することが許される。

「作成動詞」の概念構造

[x ACT (ON p)] CAUSE [BECOME [BE [AT z]]]

- (24) a. 他 **寫出** 了一篇小説。 (彼は小説を一冊書いた)
 b. 他 **畫出** 了一幅山水畫。 (彼は山水の絵を一つ描いた)
- (25) a. 她 **繡出** 了一隻老虎。 (彼女は虎を一匹刺繍した)
 b. 她 **烤出** 了一個起司蛋糕。 (彼女はチーズケーキを一個焼き上げた)

作成動詞は「出」と結合する場合、(26)に示されるように、「畫」と「畫出」は意味が同じであるが、アスペクトの側面において異なりが見られる。(27)が示すように、作成動詞は完結時点を表す時間副詞とは共起しないが、「出」と結合すると共起できるようになる。「出」は結合する前項動詞に [+telic] を付与することが明らかである¹²⁾。

- (26) a. 我 **編** 了一條圍巾。 (私はマフラーを一本編んだ)
 b. 我 **編出** 了一條圍巾。
- (27) a. *我 在一個星期之内 **編** 了這條圍巾¹³⁾。
 b. 我 在一個星期之内 **編出** 了這條圍巾。 (私は一週間でこのマフラーを編んだ)

作成動詞は「出」と結合する場合、次のような概念構造で表わすことができる。

「作成動詞+出」の概念構造

[x ACT (ON p)] CAUSE [BECOME [z BE [AT OUT]]]

¹²⁾ 「作成動詞+出」において、「出」は文法化が進んで、語彙の意味がなくなり、アスペクトマーカに近い働きになると考えられる。「V出」の文法化について、更なる考察が必要である。

¹³⁾ この場合では、結果を表す補語「好」、「完」を付け加えなければならない。

(I) 我 在一個星期之内 **編好** 了這條圍巾。 (私は一週間でこのマフラーを編んだ)

4. 2. 4 結果構文タイプ

中国語の複合動詞において、二つの動詞の主語が必ず同定しなければならないという制限がなく、前項動詞と後項動詞がそれぞれ異なる主語を持つ複合も許される。また、影山(2007)が指摘しているように、中国語の結果複合動詞は、意味構造の合成によって作られるものであるため、原因と結果の間の時間的・空間的な隔たりの大きさは影響しないのである。したがって、(28)(29)(30)のように、“何らかの原因で、何かが出現した”という因果関係が想定できれば、「V出」が成立する。他動詞も非能格動詞も非対格動詞も、このタイプの「V出」の前項動詞に選択されうる。このタイプの「V出」は、(28)(29)(30)に示されるように、前項事象が後項事象を間接誘発するのみであり、使役連鎖が意味的につながらないものがほとんどである。

- (28) a. 他 **吃出** 了一根頭髮。(彼は(弁当を)食べて、(中から)一本の髪の毛が出た)
 b. 她 **喝出** 了窈窕身材。(彼女は飲んでいいスタイルになった)
- (29) a. 她 **走出** 了水泡。(彼女は歩いて水ぶくれができた)
 b. 她 **笑出** 了魚尾紋。(彼女は笑って目じりの皺ができた)
- (30) a. 他 **摔出** 了腦震盪。(彼は転んで脳震盪になった)
 b. 他 **急出** 了一身汗。(彼は焦って汗だくになった)

(28)(29)(30)のような、直接使役連鎖がみられない「V出」は数多く存在する。このタイプの「V出」は概念構造の合成によって形成され则认为られる。前項動詞が表す事象と後項動詞「出」が表す事象は、CAUSEによって結合するのである。

5 「V出」の項構造とアスペクト素性

4節では、MANNERによって結合する「V出」とCAUSEによって結合する「V出」を分類して、また、それぞれの語彙概念構造を確認した。5節では、「V出」の項構造とアスペクト素性を考察し、「V出」の項構造もアスペクト素性も「出」によって決定されることを示す。

5. 1 「V出」の項構造

5. 1. 1 項の付加

「V出」は必ず目的語を取らなければならない。たとえば、(31)(32)に示されるように、非能格動詞「走(歩く)」、「笑(笑う)」、また非対格動詞「摔(転ぶ)」、「跌(転ぶ)」は目的語を取らないが、「出」と結合すると、目的語を必ず取らなければならない。これは「出」

の性質によるものであると考えられる。移動の「出」、出現の「出」、使役の「出」はいずれも目的語をとらなければならない。このことは、「出」の項構造が「V出」に受け継がれていることを示している。

- (31) a. 她 **走出** 了水泡。 (彼女は歩いて水ぶくれができた)
 b. 她 **笑出** 了魚尾紋。 (彼女は笑って目じりの皺ができた)
- (32) a. 他 **摔出** 了腦震盪。 (彼は転んで脳震盪になった)
 b. 他 **跌出** 了一身傷。 (彼は転んで怪我だらけになった)

5. 1. 2 着点 (GOAL) を選択しない

「出」は起点を表す動詞であるため、着点を必須項に選択しない。「送(贈る)」、「寄(送る)」など、着点を必須項とする動詞は「出」と共起すると、(33)b(34)bが示すように着点をとることができなくなる。このことも、「出」が主要部であることを示している。

- (33) a. 老闆 **送** 了一部車給秘書。 (社長は一台の車を秘書に贈った)
 b. *老闆 **送出** 了秘書。 (社長は秘書に贈った)
 c. 老闆 **送出** 了一部車。 (社長は一台の車を贈った)
- (34) a. 我 **寄** 了一封信給姐姐。 (私は姉に一通の手紙を送った(郵送した))
 b. *我 **寄出** 了姐姐。 (私は姉に送った)
 c. 我 **寄出** 了一封信。 (私は一通の手紙を送った)

5. 2 アスペクト素性

最後はアスペクトの側面から「V出」を考察する。移動の「出」と使役の「出」は、(35)(36)に示されるように、完結時点を表す時間副詞と共起することができる。また、「出」は、(37)(38)が示すように、継続時間副詞と共起する場合、変化が終わった後、結果状態の持続時間を表す。つまり、「出」はその意味に関わらず、移動の「出」、出現の「出」、使役の「出」はいずれも [+telic] であることが分かる。

- (35) 他 在十分鐘之内 **出** 了門。 (彼は 10分 で家を出た)
- (36) 老師 在五分鐘之内 **出** 了三道題。 (先生は 五分 で問題を三つ出した)
- (37) a. 他 **出** 國 三年 了。 (彼は国を出て 三年 経った)
 b. 他 **出** 獄 六個月 了。 (彼は刑務所を出て 六ヶ月 経った)
- (38) a. 他 **出** 疹子了。 (彼は湿疹ができた)
 b. 他 **出** 疹子 一個星期 了。 (彼は湿疹ができてから 一週間 経った)

ほかの動詞と結合する場合も、「出」は前項動詞が表す事象に完結点をもたらし、

[+telic]を付与する。たとえば、(39)(40)に示すように、作成動詞「烤(焼く)」、「編(編む)」などは、「30分で」、「3日で」といった時間副詞と共に起しないが、「出」と結合すると、共起できるようになる。このように、「出」は主要部として、「V出」のアスペクト素性を決定していることが分かる。

- (39) a. *我在三十分鐘之內 **烤** 了一個起司蛋糕。
 b. 我在三十分鐘之內 **烤出**了一個起司蛋糕。(私は30分でチーズケーキを焼いた)
- (40) a. *她在三天之內 **編** 了一條圍巾。
 b. 她在三天之內 **編出**了一條圍巾。(彼女は三日でマフラーを編んだ)

6 まとめ

本稿はモジュール形態論に基づき、語彙概念構造を用いて「V出」の概念構造を考察した。本稿は「V出」をMANNERによって結合するタイプと、CAUSEによって結合するタイプに分類し、それぞれの語彙概念構造を確認した。また、項構造においても、アスペクトの側面においても、「出」が「V出」の項構造やアスペクト素性を決定することを裏づけとして、複合動詞「V出」において「出」が意味的主要部であることを確認した。本稿の考察を通じて、移動の「出」と出現の「出」は相互関係をなしていることが明らかになった。複合動詞「V出」、特にCAUSEによって結合するタイプは、どのようなメカニズムで合成されることを今後の課題とする。

主要参考文献

- 今泉志奈子・郡司隆男(2002)「語彙的複合における複合事象 「出す」「出る」に見られる使役と受動の役割」『文法理論：レキシコンと統語』東京大学出版会 33-59.
- 上野誠司・影山太郎(2001)「移動と経路の表現」影山太郎(編)『日英対照 動詞の意味と構文』大修館書店 40-68.
- 影山太郎(2002)「非対格構造の他動詞－意味と統語のインターフェイス」伊藤たかね(編)『文法理論：レキシコンと統語』東京大学出版会 119-145.
- 影山太郎(2007)「辞書情報と結果述語の含意的普遍性」『レキシコンフォーラム NO3』ひつじ書房 131-159.
- 影山太郎・由本陽子(1997)『語形成と概念構造』研究社.
- Tai, James H-Y.(2003)Cognitive Relativism : Resultative Construction in Chinese. *Language and Linguistics* 4.2 :301-316.
- 劉月華 (1998)『趨向補語通釋』北京語言文化大学出版社.